

## 編集後記

この『企業家研究』第15号は、論説1本、研究ノート2本、ケース資料1本、特集論文2本、共通論題論文4本という近年になく充実した構成になりました。

論説・神谷論文は、愛知県三河地区中小鉄工業を対象に技能学習に着目し、正統的周辺参加(LPP)論の視点から、製造業経営者の先代主導と後継経営者主導の場合について、丹念に明らかにした。

研究ノートのうち石堂・高槻・上東論文は、出光興産の創業者・出光佐三が神戸高商を卒業後、なぜ酒井商会という個人商店に就職したのか、という著名な逸話を詳細な資料分析に基づいて検証し、当時の高商生のキャリア選択を活写している。同じく島田論文は、渋沢敬三没後30年プロジェクトの成果に国文研による実業史博物館構想資料の解析を加えて、民俗学と経済人の両面から、渋沢敬三の実像に迫る。

また酒井論文は、栃木県の個人企業マニー株式会社 が日本国内の縫合針をステンレス製に変え事業基盤を確立する過程を、開発と普及プロセスに分け、緻密な調査分析により記述する貴重なケース資料である。

また、本号の最大の特徴は、特集論文として厳正な査読を経て、2論文を掲載している点である。山田論文は、有田焼陶磁産地を事例として、産地の自己革新に企業家活動の観点から接近し、企業のみならず伝統産地もまた競争と革新を通じて、製品と顧客に対応した協働と人材育成の仕組みを展開する循環のプロセスを内包することを明らかにする。鹿住・河合論文は、我が国の女性起業家とその支援策について、自己効力感というオーソドックスな視点から検証し、非公式の制度的支援がプラスの影響をもたらすことを緻密なデータ分析から詳らかにしている。これらの2論文は、まさに我が国の時代のコンテキストの中で、痛切に必要な性が認識される分野であり、今後の重要な里程碑として読まれるだろう。

また2017年度年次大会共通論題論文として、秀逸な論考4本を掲載している。鳩澤論文が示すように、研究史の中で、企業家活動の経済社会・市民社会における社会的役割や位置づけを異文化やマイノリティ、内なる外部性という観点から問う。これは原理的に重要な視点である。竹原論文は、19世紀ドイツ社会におけるユダヤ教徒の固有の文脈を踏まえて、社会の世俗化の中での役割を照射している。高田論文は、ハプスブルク帝国期ハンガリーの近代化におけるマイノリティ企業家の出現と消滅の過程を描き、社会的役割の本質に迫る。さらにイヴ＝ドンゼ論文は、19世紀に国民国家の枠組みを超越して活動を展開する企業家活動を国際経営史の観点から再考する。

このように現代の企業家活動の実践と理論に対する豊かな示唆に富む内容を持つ本号は、投稿者・レフェリーさらには大会における充実した議論を通じて参加した会員各位の貢献の賜物である。感謝し益々の積極的な研究と投稿をお願いする。(山田仁一郎)

## 執筆者紹介 (五十音順, 敬称略)

石堂	詩乃	神戸大学経済経営研究所
鹿住	倫世	専修大学教授
金井	一頼	青森大学学長・大阪市立大学特任教授
上東	貴志	神戸大学経済経営研究所
神谷	宜泰	名古屋市立大学大学院博士後期課程
河合	憲史	Sussex 大学准教授
橋川	武郎	東京理科大学教授
酒井	健	創価大学准教授
島田	昌和	文京学院大学教授
高田	茂臣	大東文化大学教授
高槻	泰郎	神戸大学経済経営研究所
竹原	有吾	学習院大学准教授
ビエール＝イヴ＝ドンゼ		大阪大学教授
鳩澤	歩	大阪大学教授
山田	幸三	上智大学教授

## 編集委員名簿 (五十音順, 敬称略)

委員長	粕谷誠	東京大学教授
副委員長	田中一弘	一橋大学教授
委員	伊藤之	滋賀大学教授
	江島裕	大阪経済大学教授
	鹿住倫世	専修大学教授
	加藤厚海	広島大学教授
	金井一頼	青森大学学長・ 大阪市立大学特任教授
	佐々木聡	明治大学教授
	佐藤政則	麗澤大学教授
	柴孝夫	京都産業大学教授
	島本実	一橋大学教授
	杉山里枝	國學院大学教授
	高橋徳行	武蔵大学教授
	延岡健太郎	一橋大学教授
	長谷川信	青山学院大学教授
	原田信行	筑波大学准教授
	鳩澤歩	大阪大学教授
	平野恭平	神戸大学准教授
	山田仁一郎	大阪市立大学教授
	吉村典久	大阪市立大学教授

※2018年5月10日現在

## 『企業家研究』第15号

2018年7月10日印刷, 2018年7月20日発行

発行所 企業家研究フォーラム

会長 沢井 実

〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町1-4-5

大阪産業創造館B1F

大阪企業家ミュージアム内

株式会社 有斐閣

発売所 東京都千代田区神田神保町2-17

印刷 大日本法令印刷株式会社

製本 長野県長野市中御所3-6-25

ISBN 978-4-641-49934-8

